

潜在精巢摘出における hCG負荷試験の意義

(株)益田大動物診療所
嶋田浩紀、原知也、長崎雄太
足立全、岸本昌也、加藤大介



(株)益田大動物診療所

材料及び方法

■ hCG負荷試験



- ・血清中テストステロン(T)濃度を測定

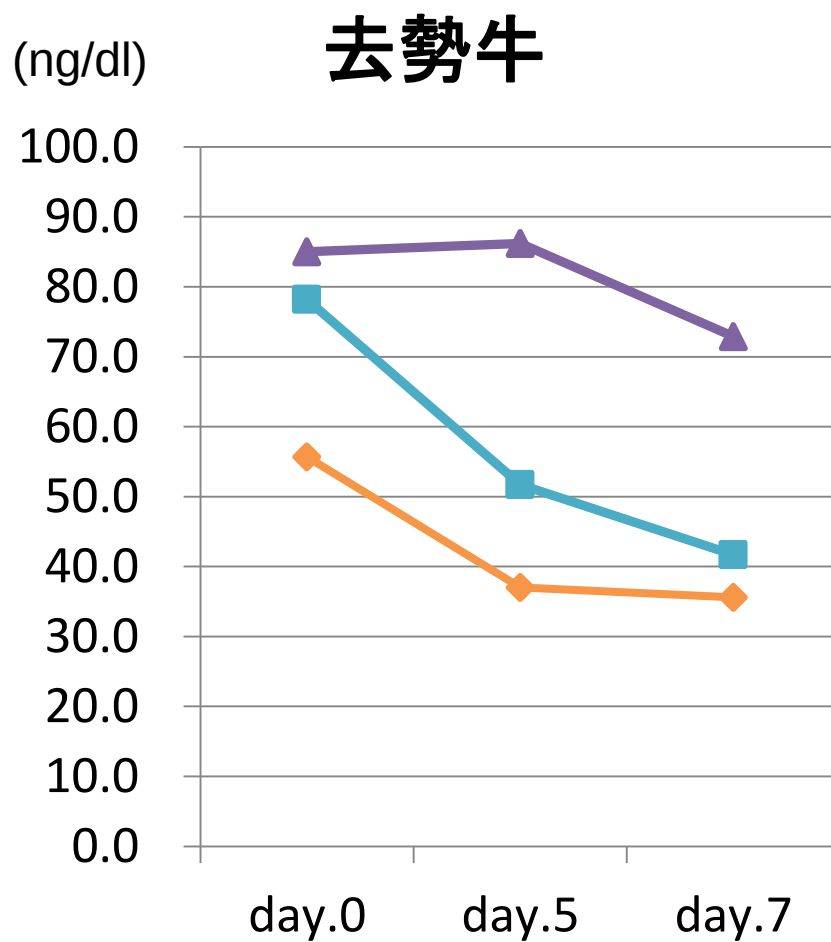
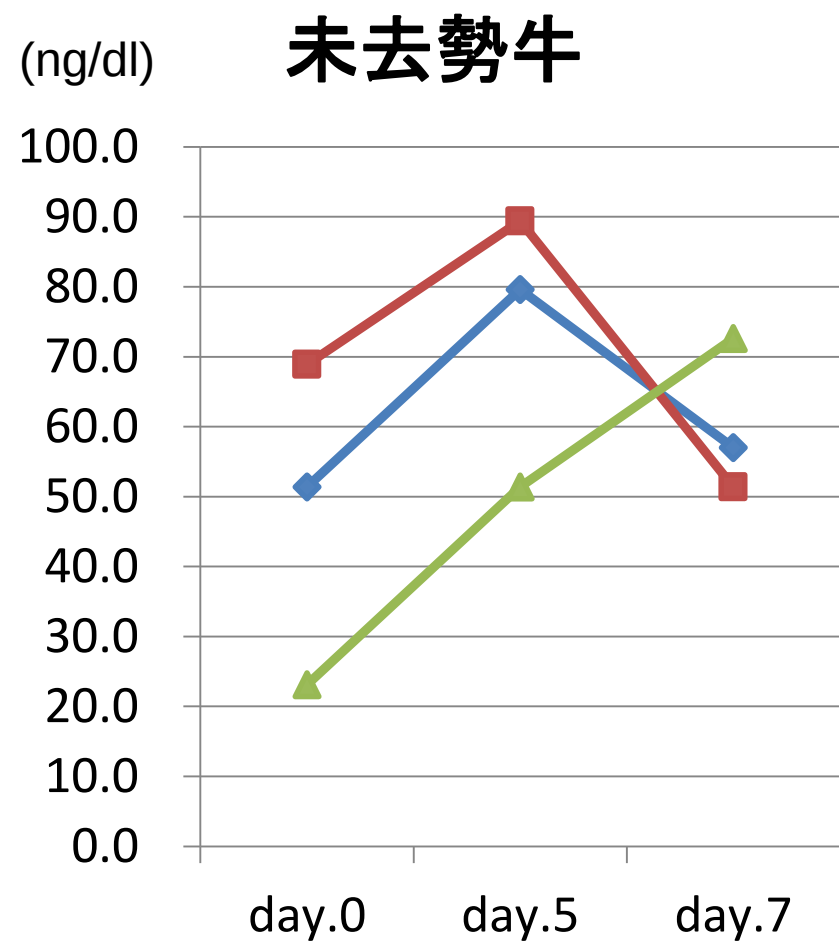


材料及び方法

- 去勢牛、未去勢牛におけるhCG負荷試験
 - ・交雑種（黒毛和種 × ホルスタイン種）
 - ・4ヵ月齢
 - ・去勢牛：3頭、未去勢牛：3頭



結果



症例

- 症例①: ホルスタイン種、6カ月齢
- 症例②: 黒毛和種、6カ月齢
- 症例③: 交雑種、8カ月齢
- 症例④: 黒毛和種、7カ月齢



潜在精巣と診断し、hCG負荷試験を実施

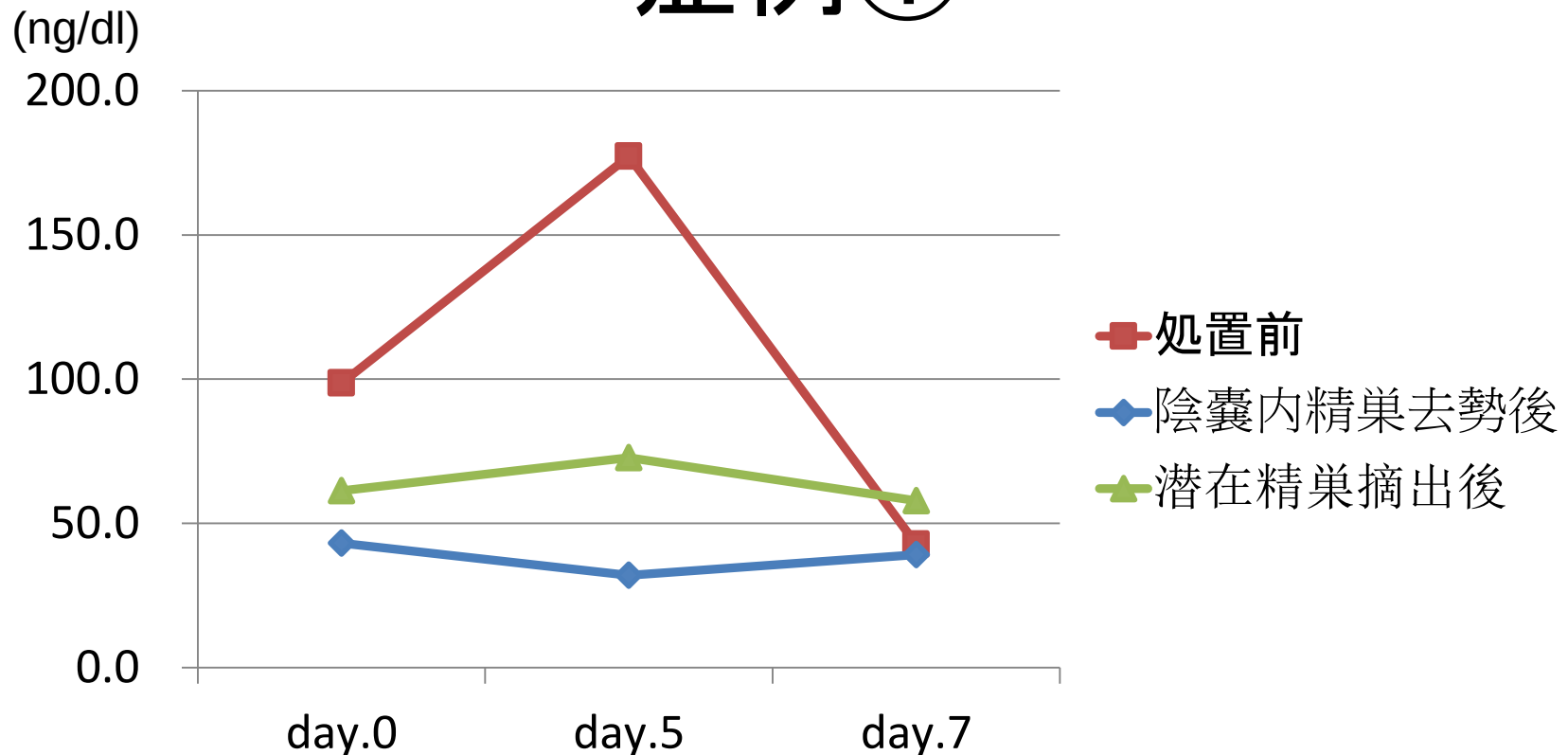


症例①

- ホルスタイン種
- 6カ月齢
- 片側性潜在精巣（左側）
- hCG負荷試験
 - ・処置前（陰嚢内精巣と潜在精巣のT産生能）
 - ・陰嚢内精巣去勢後（潜在精巣のT産生能）
 - ・潜在精巣摘出後（去勢牛のT産生能）



症例①



- 陰嚢内精巣去勢後において、既にテストステロン値の上昇は見られなかった。
 - 摘出した潜在精巣にはT産生能が無かった。
 - 精巣の発育とともにT産生能を獲得する可能性が考えられた。

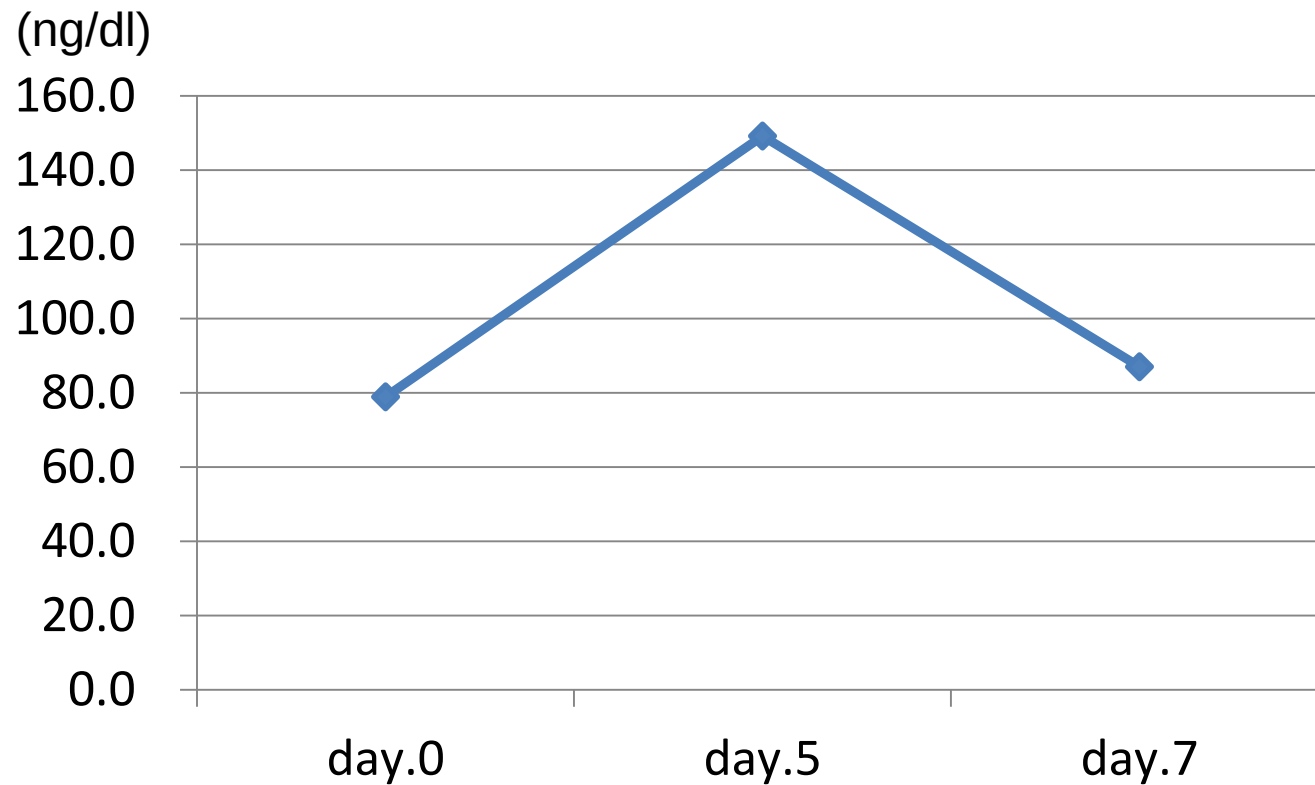


症例②

- 黒毛和種
- 6カ月齢(hCG負荷試験時)
- 片側性潜在精巣(左側)
- 4カ月齢時に摘出手術を行うも、皮下及び腹腔内の探索により、潜在精巣を確認出来ず。
- 潜在精巣の存在及びT産生能を確認する目的でhCG負荷試験を実施。



症例②

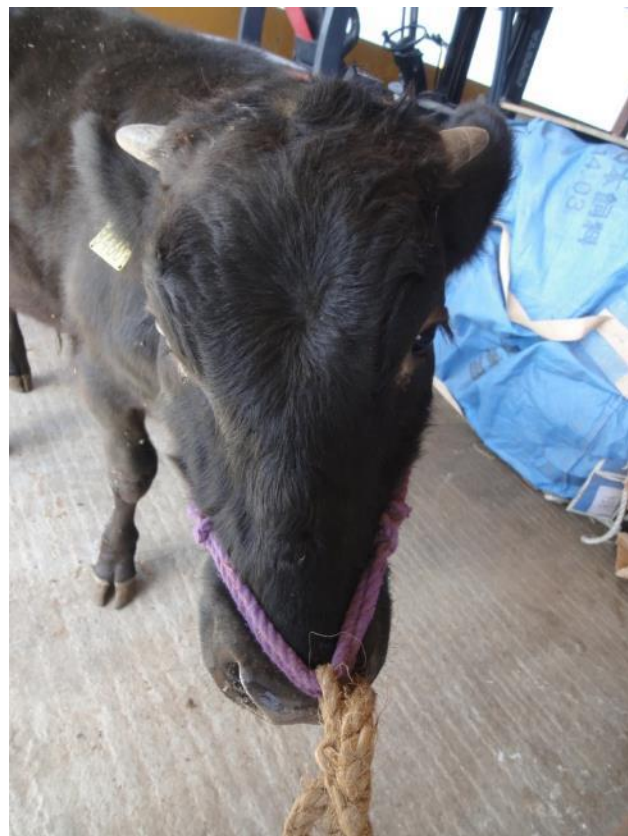


➡ 精巣の存在を確認

➡ 再手術



症例②



症例②



➡ 精巢逸所症と診断 (株)益田大動物診療所



症例②



症例②

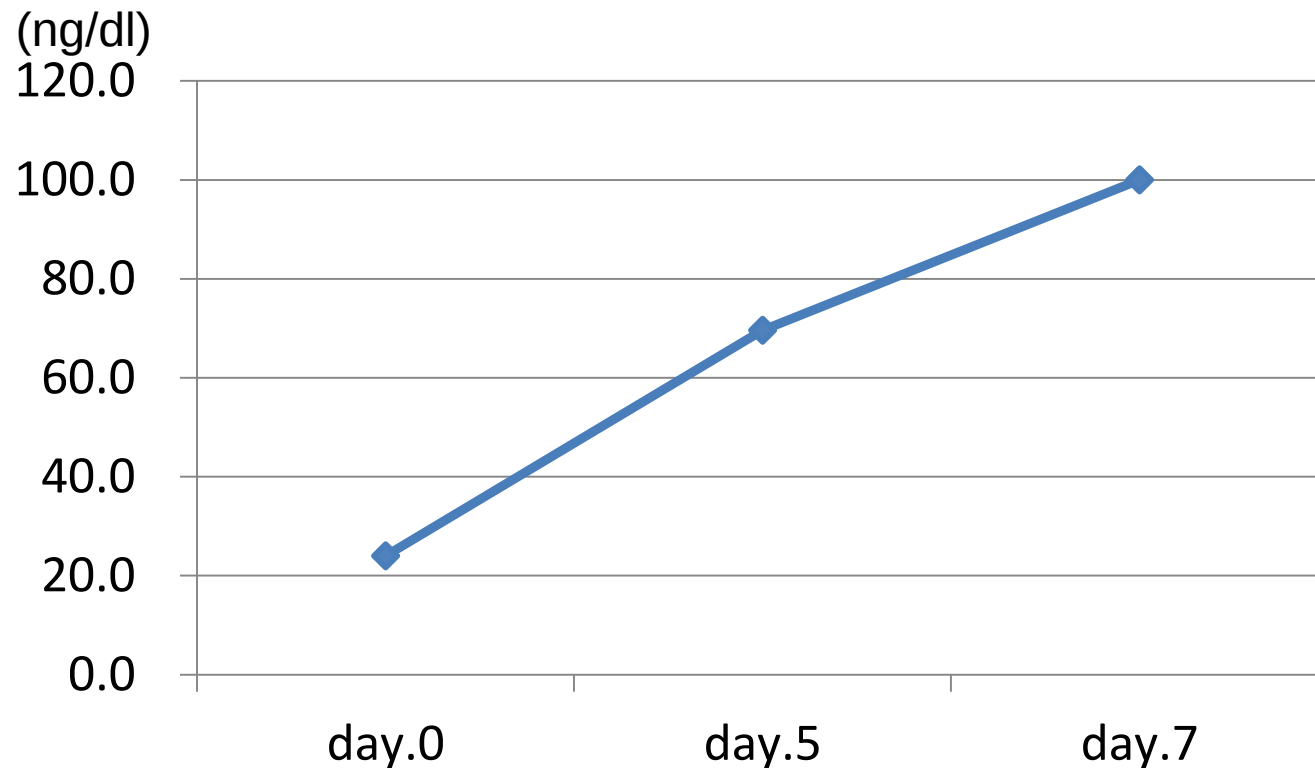


症例③

- 交雑種
- 8カ月齢(hCG負荷試験時)
- 片側性潜在精巣(右側)
- 6カ月齢時に摘出手術を行うも、皮下及び腹腔内の探索により、潜在精巣を確認出来ず。
- 潜在精巣の存在及びT産生能を確認する目的でhCG負荷試験を実施。



症例③



➡ 精巣の存在を確認

➡ 再手術



症例③



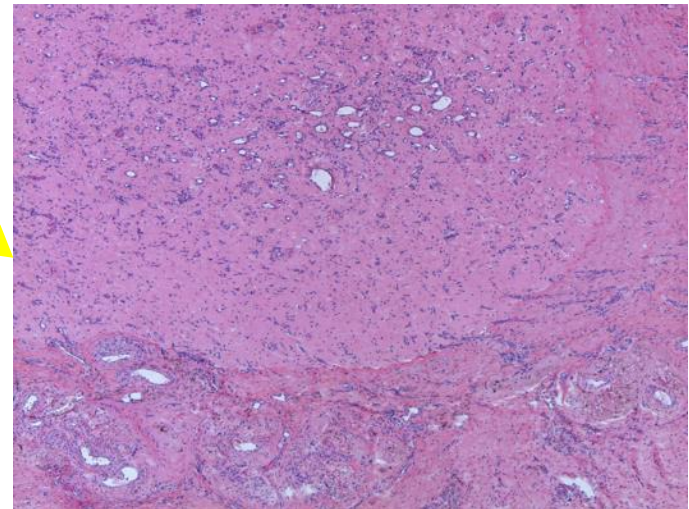
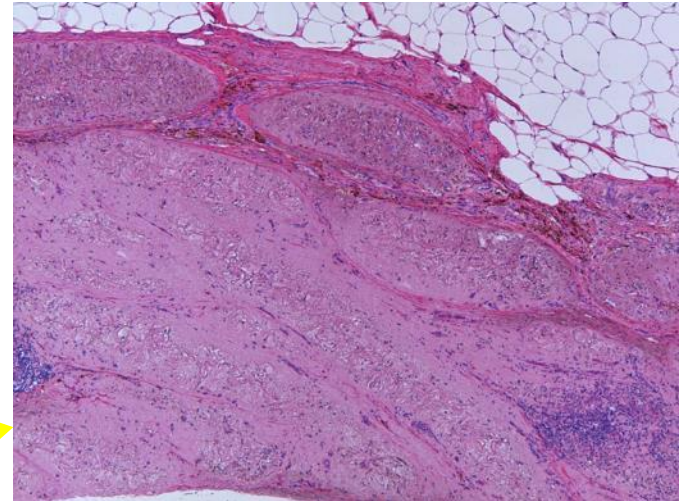
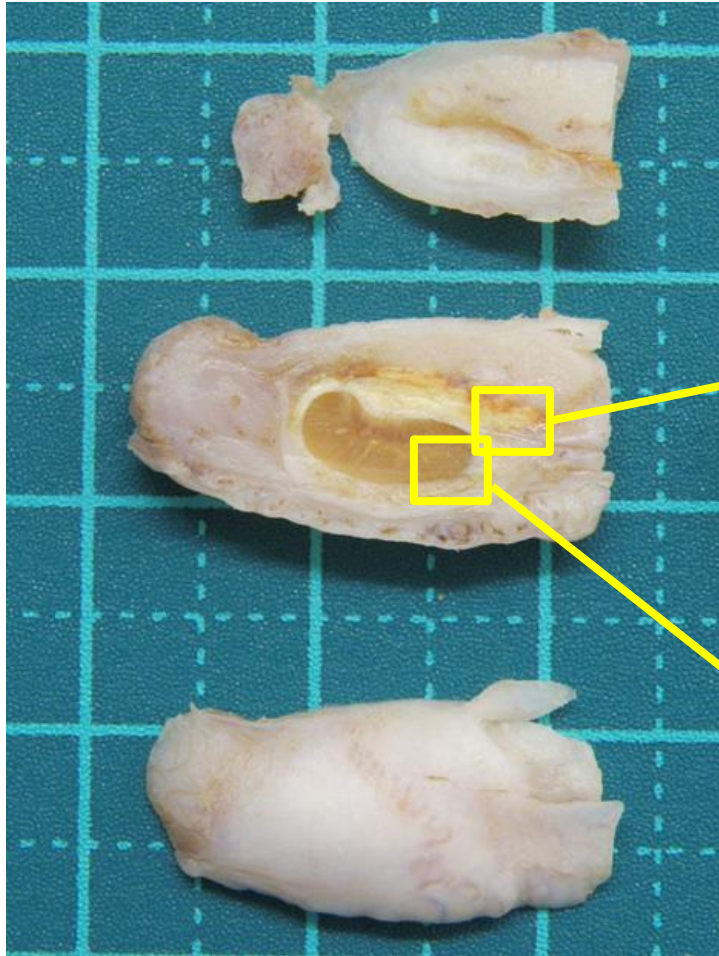
症例③



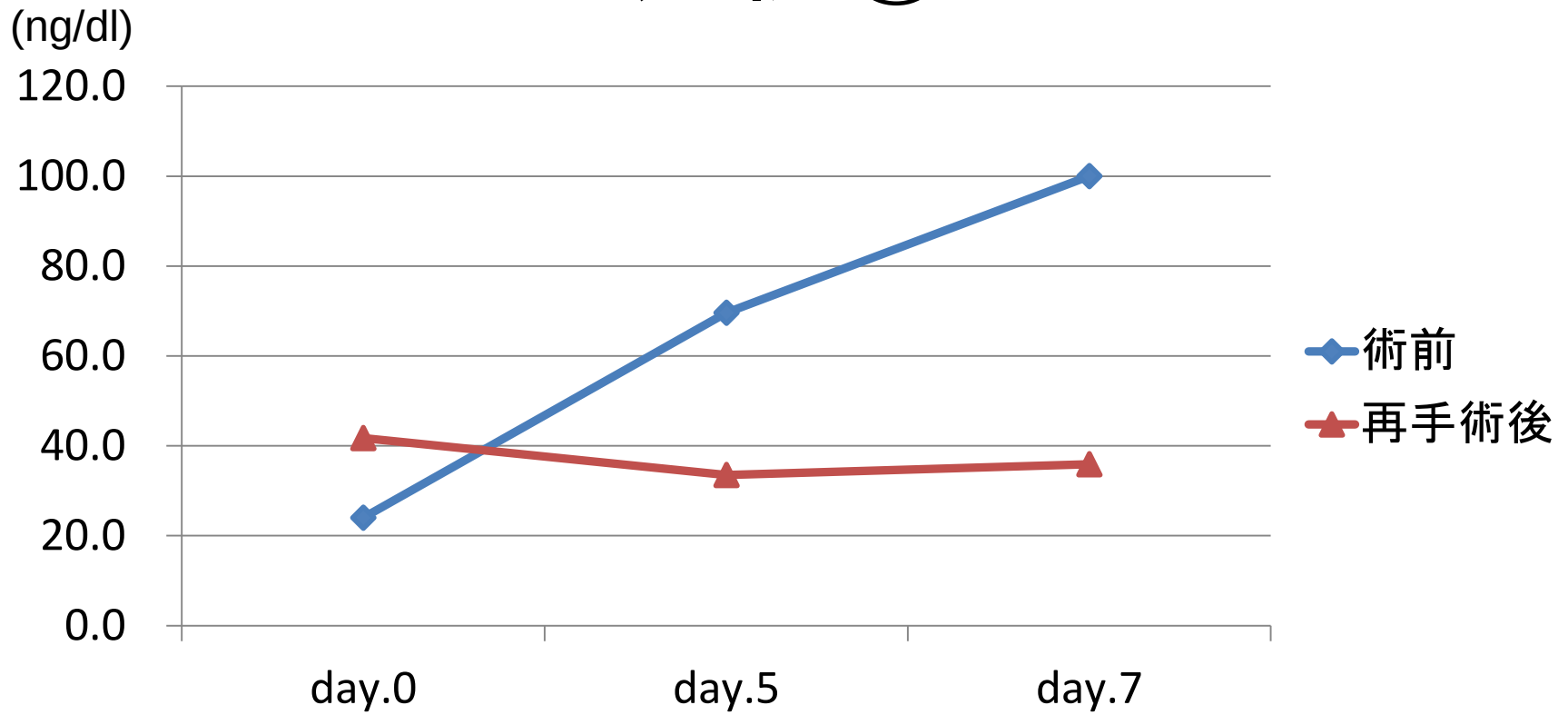
症例③



症例③



症例③

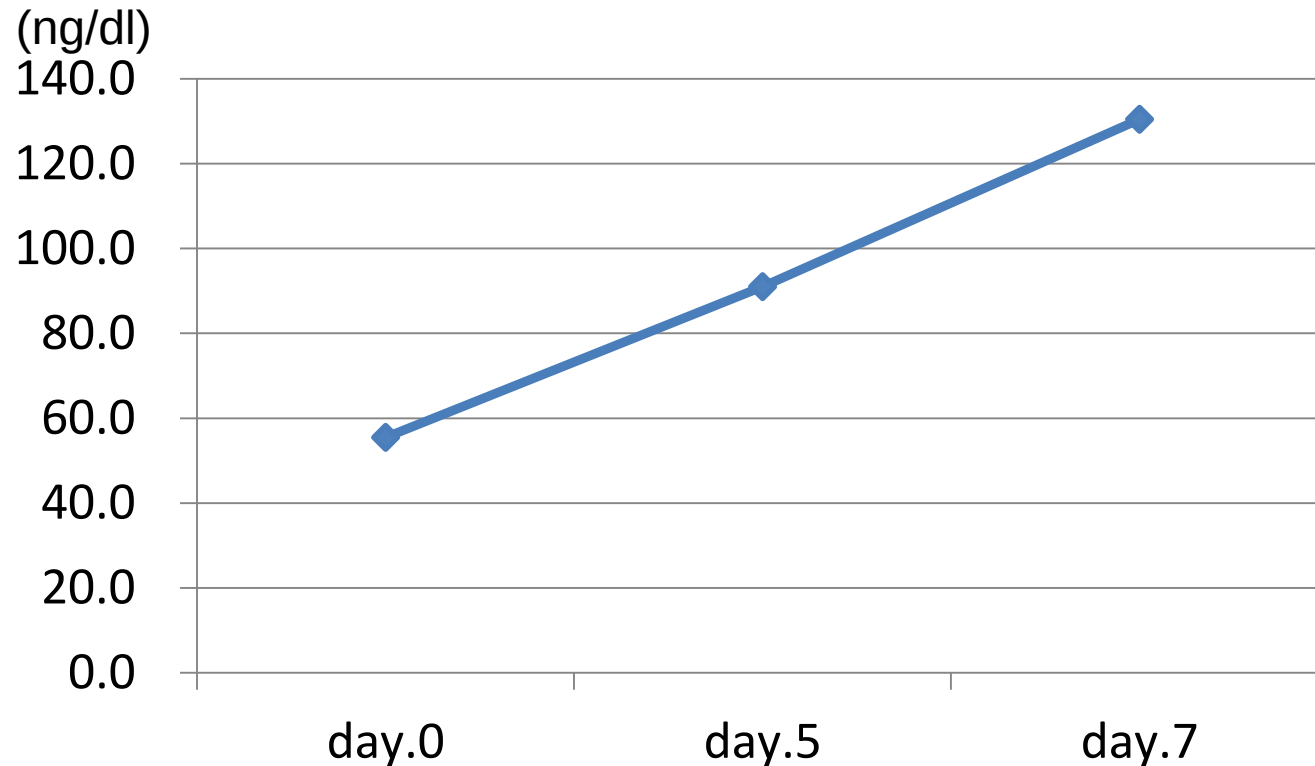


症例④

- 黒毛和種
- 7ヵ月齢(hCG負荷試験時)
- 片側性潜在精巣(右側)
- 摘出手術を行うも、皮下及び腹腔内の探索により、潜在精巣を確認出来ず。
- 潜在精巣の存在及びT産生能を確認する目的でhCG負荷試験を実施。



症例④

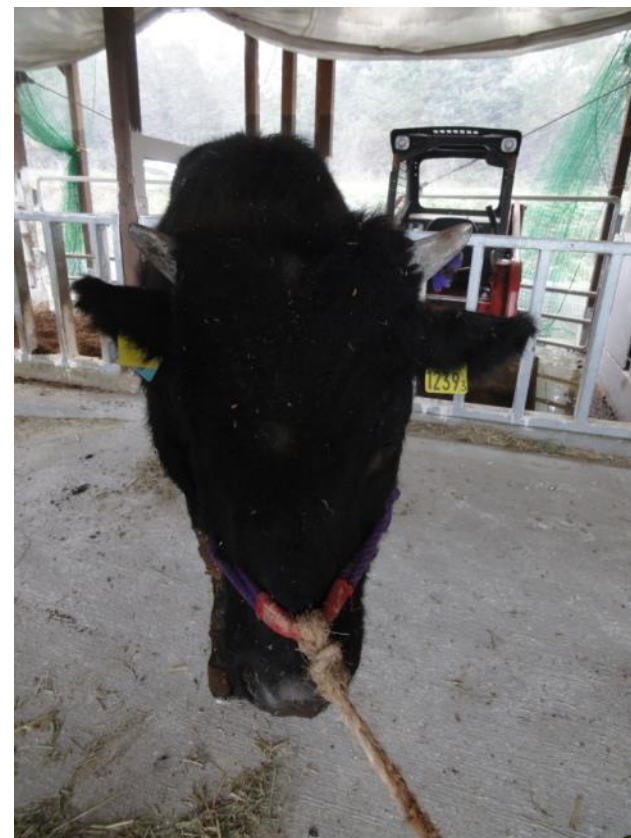


➡ 精巣の存在を確認

➡ 再手術



症例④



症例④



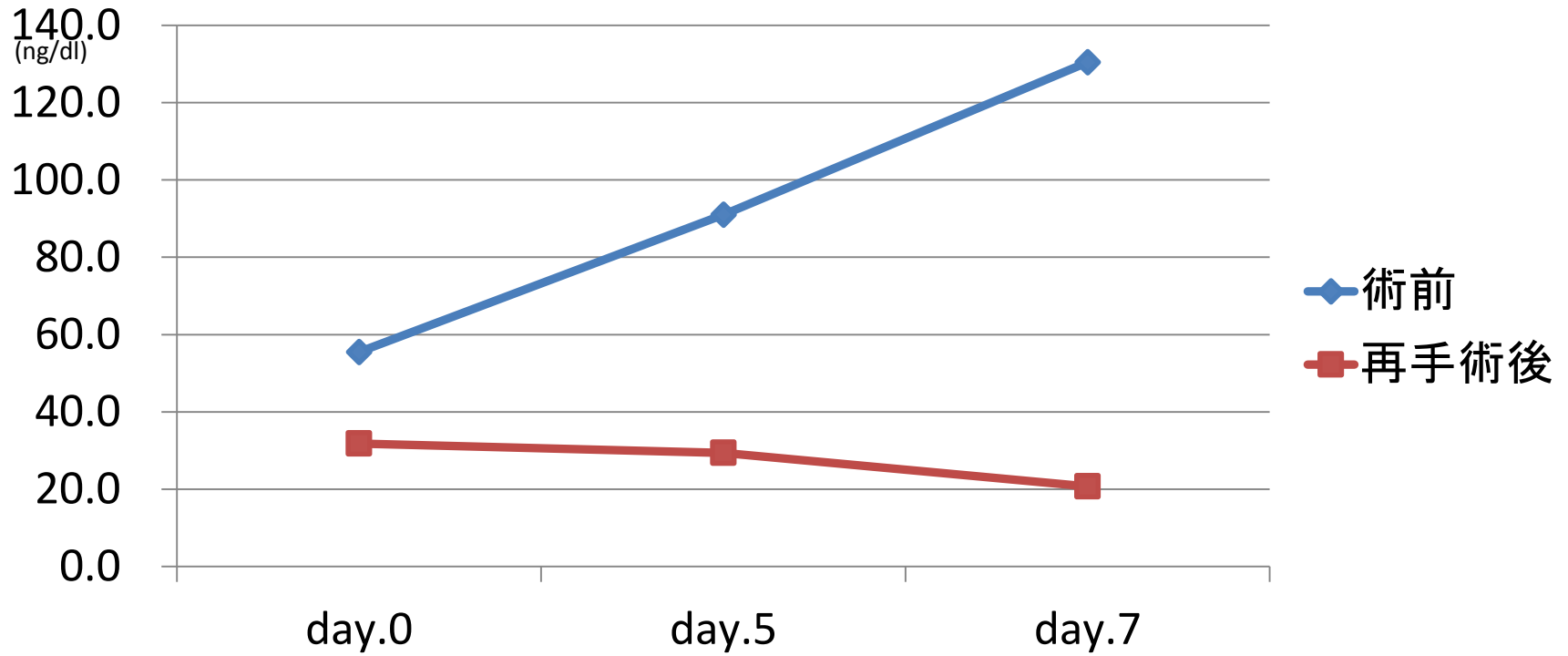
症例④



症例④



症例④



潜在精巣牛に対するhCG負荷試験の意義

- 精巣の有無を的確に診断できる。
- hCG投与による精巣の発育、精巣下降の促進が期待できる。
- 術前、術後のT産生能を測定することで、摘出手術の成否を判断できる。
- hCG負荷試験が去勢牛としての診断となり、子牛市場への出荷、肥育に供する事が出来る。

